

淑徳大学アーカイブズ・ニュース

vol.26

2023.1.11

目次

アーカイブズ特別展示室

(2022年特別展 いま、読み解かれる『大念寺日鑑』—地域社会と福祉—)	1
学祖に迫る その4 杉山和世先生からみた学祖	2
～表紙の資料(写真)について～	2
アーカイブズの活動紹介	3
寄稿 徳丸 善明(卒業生 8期)	4
アーカイブズ力(りょく)をつける その4(清水 邦俊)	6
アーカイブズ事務室だより／ご協力のお願ひ／編集後記	8



学祖に迫る その4

杉山和世先生からみた学祖

淑徳大学千葉キャンパスで1年生向けに行われた「長谷川良信の思想と生涯」の講演記録から、今回は杉山和世先生の講演を取り上げます。



学祖 長谷川 良信先生

杉山先生は金春流の能楽師で人間国宝の野村保を父に持ち、自らも能楽師「野村和世」として活動された方です。淑徳大学教授として昭和56年(1981)～平成6年(1994)まで在職し、「学問の基礎」「文学」「文学演習」の授業を担当されました。

「学祖長谷川良信先生の教育と芸術(能楽)との関わりについて」という内容の講演から良信先生の思いをピックアップしてみます。

良信先生が女子教育に力を入れたことは、よく知られています。巣鴨女子商業高等学校(淑徳巣鴨高等学校の前身)では、長らく謡曲仕舞が必修科目でした。情操教育を補うためには、何がよいかと考えられた良信先生は、日本が世界に誇れるものに能楽があると考え、それを学校教育に取り入れられ、感性を養うという側面から人格教育を行います。

杉山先生は、「一挙手一投足に心を入れてやるのが大事」で、そうしたことが身につくことは、人間として大事なことで、学生たちに語り掛けます。

講演の中では、良信先生が淑徳大学を建学した意図をつぎのように強調しています。

長谷川先生の本当に考えていらっしやったことは、社会の中で指導者になれるような人間をつくらう、という思いがありました。

こうした良信先生の抱かれた思いを忘れないでほしいと伝えます。

また、良信先生の仕事の様子も話されています。生活そのものが仕事になっていたということです。仕事をする場所に寝起きなざる場所があって、必ず本棚が置かれており、本棚はぎっしり書物で詰まっていたといいます。

人を支えることは、「頼まれたらできるだけ早くやってあげることが大切です」とも学生に伝えています。

(1997年6月19日の録音テープより)

～表紙の資料(写真)について～ アーカイブズ特別展示室

表紙の写真は、2022年秋に開催いたしました特別展示の様子です。

『大念寺日鑑』全5巻刊行を記念しまして、大念寺(茨城県稲敷市)の日記である「日鑑」から江戸時代の地域社会と福祉に関して、写真パネルを活用して展示をいたしました。

内容は、「檀林」、つまり僧侶養成の専門学校である寺院のひとつの大念寺の檀林寺院としての姿を描きました。その役割と動向を見通した「檀林寺院の特質と年中行事」、檀林としての様子、さらに地域社会・福祉の視点からみた大念寺、加えて受け継がれてきた文化財や地域の民俗との関わりにもスポットを当てました。

こうした展示が展開できたのも、大念寺で日鑑が現在まで大事に保存されてきたからです。江戸時代中期以降の資料が豊富に残されており、日鑑はその一部です。日鑑以外の資料から何度かにわたって整理されたことがわかり、寺院のアーカイブズの世界を垣間見ることができます。

アーカイブズの活動紹介

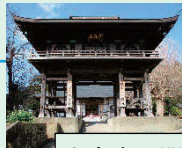
アーカイブズ事務室は、資料の受け入れ、受け入れ後の資料整理はもちろんですが、資料寄贈のご相談も受けています。そのような中で、卒業生から資料をご寄贈いただくことも増えて参りました。

以前もお伝えしましたが、収蔵資料のうち、写真資料は点数も多く、未整理のまま残されていることが課題でした。昨年度より専門の方にアルバイトで入ってもらい、写真の整理が段階を踏んで進んでいます。

良信先生の資料に関しても、再度点検が始まっていますし、慈光保育園の年史編纂の支援も始まりました。

資料調査

今年度は、大念寺で日鑑以外の古文書調査も実施しています。



大念寺三門

秋からの特別展で日鑑を中心とした資料をお貸しいただけることになり、大念寺の御住職古矢智照様はじめ大念寺様には、大変お世話になりました。

叢書の刊行、準備中。

事務室では、アーカイブズ叢書を毎年1冊ずつ刊行しております。

本年度は、浄土宗関東十八檀林の常福寺（茨城県那珂市）の日鑑を集成した『常福寺類聚』です。3巻に編集する予定で進んでおります。8月18日には、茨城県立歴史館所蔵の常福寺の類聚を写真撮影致しました。

活動紹介

淑徳大学アーカイブズ・ボランティア

古文書ボランティアは、感染予防に努めつつ、対面での活動を行っております。毎月第二と第四の金曜日、10時～12時まで活動していましたが、開始時間を30分早めることになりました。古文書の読解の作業（常福寺の史料・法問記）を進めています。

展示準備の一端を担っていただくなど、作業内容も相談しながら進めています。



古文書ボランティアの皆さん

特別展Ⅱ期のご案内

『いま読み解かれる『大念寺日鑑』—地域社会と福祉—』

アーカイブズ特別展示室にて、2022年秋から開催しました特別展示は、Ⅱ期を2023年4月3日～4月28日に開催いたします。



Ⅱ期の展示は原本史料の展示替えをするとともに、さらにわかりやすく説明を加えて展示します。来室をお待ちしております。

寄稿

ある8期生の日々

宮崎県在住 徳丸 善明(8期生)
(昭和47年[1972]4月～51年3月)



1 日常生活

大半の学生が裕福ではなくアルバイトをしていました。部屋には洗濯用ハンガーに紅茶パックがぶら下がっていた時代です。勤労学生も何人かいました。私の場合はまず牛乳配達。販売店に住み込みです。未明の千葉市内で配達をしていました。しかし、腰を痛めて店を半年余りで辞めました。その後は新聞配達や会社の夜間警備員、中山競馬場の清掃員などです。3年次からいただいた奨学金で生活はずいぶん楽になりました。

住まいは数メートル歩いて塀をまたぐと大学のテニスコートという近さ。家賃5000円。共同トイレ。ネズミと同居です。入浴は銭湯で夏は第一男子寮近くにあったプールです。フェンスにはなぜか1か所だけ人がくぐれる穴。心当たりの方も多いのでは。

食生活は自炊。学食にはほとんど行きませんでした。副菜は時に野山で採れる山菜。宮崎の田舎育ちですからどこで何が採れるかわかります。春はタケノコ、ノビル、フキ、ワラビ。秋はアケビやヤマブドウがとれ放題でした。九十九里浜まで足をのばせばイワシの干物が段ボール1箱100円でした。大巖寺境内で茶摘みをしてお寺の平釜で祖母から習った釜煎り茶も作ったこともあります。

私の行動半径を広げてくれたのは宮崎ナンバーのオートバイ。これが山菜採りや友人のアルバイト訪問、買い物、都内に行く際の千葉駅までの足となりました。東北や信越地方の旅にもバイクででかけました。

2 サークル

最初は部落問題研究会に入部。他に児童問題、セツルメント、詩吟、ユースホステル旅、手話等あとは拳法、剣道等の体育系のサークルでした。部落研では被差別部落に入って家庭教師をしていました。活動自体は学ぶこと大でしたが考え方で違和感を覚えてリタイアしました。その後は興味関心の向くままに広く浅く学びました。各種講演会、研究会、集会、他大学の聴講に「通学定期」を発行してもらって出かけました。

次第に友人も増えました。やがて気の合う仲間と同人誌「峡谷」を立ち上げました。「峡谷」には「龍澤山」の深い谷間という意味がこめてあります。3号だけの発行でしたが夜遅くまで誰かの部屋で議論を闘わせて持ち寄った原稿をガリ版刷りで出しました。これも一種のサークルでしょう。部屋の固定電話もスマホもない時代のことです。対面で政治、福祉、文学、趣味、恋愛観など酒を飲みながら語り合いました。

3 大学での学び

学生は北海道から沖縄まで全国から集まっていたので、目的意識を持っており向学心に燃えていました。講義はほとんどが少人数だったので先生と学生の間が親密になります。授業は対話形式も取り入れられていました。

私のふざけたレポートに対し手厳しい批判を返された先生もおられました。先生方は情熱的で真剣に学生に向き合っていて下さっていました。フランス語の富田先生宅で明け方まで語り明かしたこともありました。

3年次からはゼミに所属。私は倫理学の奈良博順先生でした。長野県の松原湖合宿がなつかしい。合宿はゼミ毎に行われていたはず。奈良先生には卒論までご指導いただきました。卒論は社会事業史に関する内容だったので歴史の長谷川先生(現、大乘淑徳学園理事長)にもご指導いただきました。この時期は親しく接していただいた先輩で日本民俗学研究者の三好一成さんから刺激を受けました。学ぶことの楽しさを体験できた淑徳での日々でした。



奈良博順ゼミ合宿集合写真(1974年10月撮影)
後列左から4人目が奈良博順先生
前列右から2人目が徳丸

4 学生運動

ところで紙面は「アーカイブズ・ニュース」なので、記録にはほとんど残らない50年前の学生運動を紹介します。都内の大学では過激派

のセクト間争いで「内ゲバ」を繰り返していた頃です。学内には自治会があって「とんがった」文字の立て看板が立ち並んでいました。昭和49年(1974)秋のことです。大学は学費の大幅値上げを突然提起しました。

学費値上げは新入生からなので、在学生には値上げは及びませんでした。我々は敏感に反応し、自治会を中心に学費値上げ反対運動がおきました。これには、日頃自治会と反目し合っていたM派も合流。異例の臨時学生総会が成立しました。貧乏学生が多いので、他人事ではなかったのだと思います。会場にはタバコの煙と熱気。総会は盛り上がり全学ストを決議し、ただちにストに突入しました。円形校舎で、夜間に教授会代表の先生方との深夜交渉が続きました。しかし、結局、ストライキは挫折しました。

この間の詳しいいきさつは、アーカイブズに寄贈した同人誌「峡谷」に記してあります。学生側が敗北したときには、入学してくる後輩に対して申し訳ないという思いがキャンパス内に漂ったことでした。ただし、こうした件で学生総会が成立し、総数1000人余りがストライキを過半数の総意

で決める事ができた大学はあまりないのではないのでしょうか。今ふりかえると誇らしくさえあります。大学の歴史にとどめてもよいかと思えます。

～これまで淑水記念館にお招きしインタビューを致しましたが、遠方の徳丸さんからは、原稿をご寄稿いただきました。

アーカイブズ力をつける^{りよく}

その4

学校のアーカイブズ 前編

清水 邦俊

今回は、学校のアーカイブズについて説明します。

子供は成長するにしたがって、小学校・中学校・高等学校・大学の順に進みます。このうち大学は、教育機関としてだけではなく研究機関・地域との連携といった要素がありますので、大学アーカイブズについては、次回お話しします。

小学校・中学校・高等学校では、学校に関する文書資料が日々発生しています。それらは学校教育に関する文書と、学校経営に関する文書、学校が発行した案内やパンフレット等の刊行物の三つに大別出来ます。

これらの他に、江戸時代の藩校で使用していた和書や洋書の教科書類を歴史資料として引き継いでいる学校もあります。こうした事例は、県立高等学校に多く見受けられます。千葉県の場合、県立佐倉高等学校が佐倉藩の藩校で使用していたオランダの医学に関する書籍などを引き継いで保存しています。

* * * * *

学校教育に関する文書は、①生徒の教育・教員に関する文書と、②国や自治体の教育委員会からの通達・方針等に関する文書があります。学校は教育機関であるため、生徒たちや教員・職員の校内での活動に関する文書が様々あります。

①の文書の例を挙げると、生徒たちの成績関係、学校日誌や教務日誌、勤怠簿、職員の

諸届、証明書下付願などがあります。

②は学区の改編や教員の異動などの文書があります。学校経営に関する文書は、理事会の議事録、学校の用地取得や校舎の建築・改修関係、毎年の歳出・歳入簿、庶務関係簿などになります。戦前から続く学校には、旧制中学校の文書もあり、これらの文書だけでも膨大な量になります。学校が発行した刊行物は、入学案内や学校案内、文化祭のプログラム・パンフレット、卒業アルバム、卒業文集や校内文集など、私たちが学生時代によく目にしたものです。

このうち学校日誌は、校内での事務的な出来事や来客の名前等を事務員が記録したのになります。したがって、授業以外の活動や行事を記録した重要な書類でもあります。他の文書も重要ですが、日誌は、文書では記録されない日常的な業務や特別な出来事が記載してあることもあり、当時を知るための貴重な情報源と言えるでしょう。

このように学校に関する文書には様々な活動が記録されており、それらを称して、「学校アーカイブズ」と呼んでいます。

* * * * *

また、戦前から続く学校は、文書資料の他にモノ資料も多く保存していることがあります。校舎を建て替えた際の棟札や部品、戦前の背囊、その他、学校が獲得した賞の旗やトロフィー、盾・賞状、あるいは理科室で展示していた貴重な標本など、学校に歴史があればあるほど、資料は多岐に亘り数量も多くなります。

これら文書資料やモノ資料は、学校によっては校史資料室といった名称を付けて部屋を設けているところもあります。校史資料室には、文字資料とモノ資料の両方があり、それが学校の歴史を語り伝えていると言えるでしょう。

* * * * *

これら学校資料の活用方法は、学校案内などのパンフレットやウェブサイトに掲載している沿革や、記念誌を執筆する時の基本資料となります。こういった文書を残していれば、パンフレットや記念誌も証拠に基づいた記事を執筆することが可能になります。

またNHKで放送しているタレントの先祖やルーツを探る番組「ファミリーヒストリー」で活用されることもあります。要するに、文書にはそこで学んだ生徒たちや働いた教員・事務員の活動の記録、生きた証、別な言い方をすれば、彼らが学校で過ごした時間が記録されているわけです。

* * * * *

しかし近年、少子化や過疎化によって、地域の小中学校が閉校・合併により消滅しているのが現状です。学校には思い出だけではなく、上記のように様々な活動を記録した文書が多くあり、学校がなくなることによって、それらの文書も処分されています。卒業生の手元には成績表や卒業証書は残りますが、それ以外の活動や出来事を記録した学校側の文書などは残っていないということになります。もしかしたら、この記事を読んでいる方の中にも、既に出身校がなくなってしまった方もいるかもしれません。その場合、出生の記録は役所に残っていますが、義務教育や高等学校での記録は消滅しているということ、言い換えると、卒業生達のこの時期の人生の記録がなく、空白期になっているということになります。

* * * * *

このような状況を憂いて、学校資料を残していこうと活動しているアーキビストや歴史研究者がいることも見逃せません。私が勤務していた高知県では廃校になった小学校の文書

を保存する活動を有志による会が行なっています。彼らの活動により行政側も、その重要性を徐々に認識するようになってきました。アーキビストや歴史研究者ら有志による活動は全国的に広がってきており、さらには地域の人々も参加するようになってきました。有志達は、学校の記録を残すということは、地域の歴史や卒業生を含めた学校関係者の足跡を、後世に伝えることであると、その重要性を認識しているからなのです。 (つづく)



高知県内の廃校となった小学校の調査の様子

自己紹介

認証アーキビスト。國學院大學卒業後、千葉県文書館や高知県の土佐山内家宝物資料館(現、高知城歴史博物館)にて古文書の整理に従事。2018年からJICA日系社会シニア協力隊に参画。ブラジルのサンパウロ市にあるサンパウロ人文科学研究所にて日本人移住者や日系人が残した個人資料の整理に携わる。帰国後は高知市内にあるオーテピア高知図書館にて歴史的文書の整理に従事したのち、2022年10月から国士舘大学の資料室にて勤務する。

淑徳大学アーカイブズ叢書の翻刻メンバーとして、翻刻にもかかわっている。

アーカイブズ事務室だより

事務室活動記録

(2022年4月～2022年9月)

○資料寄贈:千葉キャンパス学事部・地域支援ボランティアセンター連携室・長谷川仏教文化研究所・総務部・アドミッションセンター千葉オフィス・学生サポートセンター・同窓会事務室・校友会事務室・白井 孝氏(PKO法人ちば・生実歴史調査会)・長谷川匡俊氏・古宇田亮修氏・細谷昭夫氏・湯浅道夫氏・秋山茂樹氏・武田逸郎氏・福土美雪氏・永井文庫・徳丸善明氏

○聞き取り協力: 武田逸朗氏・西塚 洋氏・長谷川匡俊氏・丸嶋義雄氏

○資料閲覧・貸出: 淑徳巣鴨中学高等学校・千葉キャンパス附属機関事務室

○調査:大念寺(4/3,5/1,6/4,7/1,8/30)

○大巖寺宝物殿展示・開館支援:(4/12, 4/23,5/7,5/10,5/28,6/7,6/25,7/22, 8/2)

○撮影:マハヤナ学園(4/25)・大巖寺(7/7)・生実城撮影(7/7)・鈴木まひろ先生授業(7/11)・館山市船形(8/14)

○刊行物:『淑徳大学アーカイブズ・ニュース』第25号(7/7)

○協力:教育改革推進事業(榎英子教授)・淑徳フェア2022in横浜(7/30,7/31)・慈光保育園年史編纂

○視察 桃山学院史料室(8/22)

○アーカイブズ運営委員会(9/12)

以上

〈ご協力のお願い〉

*福祉関係の資料を特に収集しております。寄贈を希望される場合は、アーカイブズ事務室へご相談ください。

*廃棄の状況が生じた書類等については、アーカイブズ事務室へご相談ください。

*コロナ流行に関するメール配信等は、各キャンパスより、情報を提供いただき、ご協力いただいております。

*各部門・部署で刊行された冊子などは、日ごろから寄贈にご協力いただいております。ご協力に感謝いたします。年史を編纂するときや遡ってその時の状況振り返るときに必ず役立ちます。

〈編集後記〉

いつもアーカイブズ事務室にご協力いただき、ありがとうございます。

これまで3回にわたって、卒業生の方々にインタビューを続けて参りました。淑水記念館にお越しいただいてお話を伺いましたが、遠方の方からも在学当時のことをお教えいただくために、今回は原稿を頂戴いたしました。

今年初めて、淑徳フェアに参加させていただきました。コロナ感染症が流行している中で不自由な思いもございますが、顔を合わせて、アーカイブズについてご説明することも必要なことと改めて思いました。

こうした社会状況も、振り返れば歴史の一側面となります。その時々資料を残していくことが、将来へバトンを渡すことともいえます。引き続きご協力のほどお願いいたします。

(大鳥 聖子)

～淑徳大学アーカイブズ～

〒260-8701

千葉市中央区大巖寺町200 1号館3階

TEL 043(265)7526 <直通>

✉ アドレス archives@soc.shukutoku.ac.jp

